

令和6年度 学校評価表

学校教育目標			人権尊重を基盤として、これからの時代を生き抜く、心優しくたくましい岡見っ子の育成				浜田市立岡見小学校				
こんな岡見小学校に			自尊感情と自己有用感が高まる、あたたかい教育環境がある学校				「安心感」「期待感」「充実感」				
評価計画				自己評価			学校関係者評価		改善計画		
	中期目標	短期目標	達成のための方策	評価指標			アンケート			コメント	改善案
				教職員	児童	保護者	教職員	児童	保護者		
思いやりのある子	【「納得解」によりよい生活を営む力	学級経営	ルールとリレーションのある学級づくり ・ほめることで高い価値観を伝え続ける。 学活や朝終礼の中でお互いを認め合える場を設定する。 教育相談等による児童の実態把握をし、一人ひとりに合った言葉がけをする。 ・自分たちの問題についてしっかり話し合う場をつくる。 学級目標について振り返る機会を設定し、年間で複数回PDCAサイクルが回せるようにする。	・アンケートQUや教育相談等により児童の実態把握に努め、一人ひとりに合った言葉がけを行った。 ・学級の問題を児童自身が解決する場面を意図的に設け、児童の自治力を高める取組を行った。	・先生や友達から、はげまされることがある。 ・学級の問題はみんなで話し合って解決している。	・お子さんは、学校や家庭で「自分が安心できる場所」を持っていると思われますか。 ・お子さんは、学級での困りごとについて家でお話しされますか。	100	92.5	100	・概ね学級経営については高い評価を得ていると考えられるが、児童アンケートの、先生や友達からはげまされることがないと回答した3名、保護者アンケートの家で話をしていない6名については、特に配慮が必要と思われる。 ・少人数で、一人一人の役割が大きく活躍の場が多いことを強みに、達成感を味あわせ自己肯定感を高める取組を進めてほしい。	・少ない人数による人間関係の固定化を防ぐためにも、理解教育の一層の充実と学級活動の充実を図る。 ・児童それぞれが多面的にみられるように、主観的なとらえに加え、客観的な指標も取り入れ、学級活動等で深い児童理解に取り組んでいく。 ・児童理解を進めるための教育相談週間には、時程や時間割等工夫し、担任が児童と面談するための時間を確保する。
		特別活動	自分達で考え、実行する力を育てる ・学級会活動や係活動の充実を図る。 学年に応じて、自分たちで企画運営できる活動を設定する。 ・児童会活動や学校行事で、広い視野を育てる。 自分なりのめあてをもって児童会活動や学校行事に参加し、次の活動につながるふりかえりができるようにする。	・学年に応じ、学級活動の中で児童自身が企画運営する場を設定し、児童の主体的な取り組みを引き出すことができた。 ・児童会活動や学校行事の際、児童にめあてを持たせたくうえで参加させ、活動後には振り返りの機会を持つようにした。	・学校や学級の活動を計画したり、実行したことがあった。 ・学校行事や委員会活動では、自分のめあてを立てて活動に取り組んだ。	・お子さんは、学校の行事に、前向きに楽しく取り組んでおられる様子が見られますか。	100	87.5	97.3	・自分たちで考え、実行することは児童の主体的な取り組みに直接通じるものであり、この面での指導が成果を上げてきているように思う。一方で、高学年になっても主体的な活動の実感が持てない児童もあり、個に応じた働きかけが必要と思われる。	・行事などの事前指導では、めあてとともに役割や責任についても意識できるようにし、事後指導では、達成感が味わえるようにする。
考え創り出す子	わくわくする【学力】学びに楽しいう授力の創造	授業改善	「学ぶ力」の育成 ・学習者エンゲージメントを高めるために、子供の問いを生かした学習課題を工夫する。 興味がわく導入の仕方（課題意識、なぜ？を育てる。疑問） 資料活用、図書館、タブレット、インタビュー（手段） 次につながる振り返り ・複式「渡り」の授業等、自分たちで学ぶ力を育てる。 ガイド学習（型…見通しがもてる） 自分の考えを表現できる力をつけるために、自分の考えをもつ →他者へつたえる力（意欲）話す力 →聞く力をつける（集団づくり、支持的風土） →課題に向かう力をつける	・児童の問いをもとにした学習課題を工夫し、児童の学習意欲を高めた。 ・複式教育を意識し、児童によるガイド学習が展開できるよう、学習集団作りに取り組んだ。	・授業には、「なぜ？」「どうしてかな？」などのぎもんをもちながら取り組んでいる。 ・先生に頼らず、自分たちで学習を進めることができた。	・お子さんは、学校の授業に熱心に取り組んでいる様子が見られますか。	66.7	87.5	100	・授業改善については、教職員の評価が低いが、児童・保護者の評価はある程度高く、授業改善の方向としては間違っていないように思える。それぞれの教職員の取組の成果を認める場も必要かと思う。 ・高校入試に自己採点が導入されたように、自己分析を多面的に行い自分の良いところをとらえアピールする力は、社会に出てからも、とても大事。小6までに、とあせらず、長い目で見てほしい。 ・タブレット使用の際、視力低下が懸念されるが、その対策が必要なのではないだろうか。	・教員同士の10分程度のミニ研修の場をもつ。（日々の実践や悩んでいることの相談等） ・自分の力を試す小テストの活用。成果が見える化できるとよい。 ・授業の中で図書館活用をする単元を設定し、それを家庭学習につなげるきっかけになるようにする。 ・目標が「基礎学力」であるため、その結果が分かる具体的な評価指標を検討の余地がある。
		基礎学力	「学んだ力」の育成に向け、基礎的な学力の向上を図る。 ・小テストを活用して家庭学習を充実させる。 繰り返し取り組む（授業、家庭学習） 読書の奨励（図書館の活用） 読み書き計算の力～（授業、家庭学習） 放課後等を活用して個別の支援の充実を図る	・授業や家庭学習で学んだことが定着できるよう、繰り返し取り組ませた。	・自分の学力を伸ばすために、家庭学習に取り組んでいる。	・お子さんは、家庭学習にしっかりと取り組んでいる様子が見られますか。	100	67.5	67.5	・基礎学力については、教職員の評価が高く、児童・保護者の評価はもうひとつという傾向が見られる。学ぶ楽しさ、学力を伸ばすことの喜びを児童自身が感得できるような取り組みが求められているものと思う。 ・心の安定の面では、学校においてはある程度信頼関係が確立されているものと思われる。一方で、自分の思いを家族や友達、先生などに話すことができていないと思われる児童が一定数いることに配慮が必要である。 ・タイムマネジメントについては、学校の指導だけでは限界があることを示すものと考えられる。児童、保護者の評価数値に近いことは、自分の生活をある程度客観的にとらえることができていうことでもあり、今後の指導の手掛かりになるのではないかとと思われる。また、同様なことは、あいさつや返事の習慣化についてもいえることであり、わかっているけどできない、という児童の姿が垣間見える。	・自分の思いを教師や友達に話すことを苦手とするの児童には個別で話す時間や回数を増やす。 ・評価指標を子どもにとってもわかりやすいものにする。例えば「先生はわたしをはげましてくれる」のように具体的にすればどうだろうか。 ・タイムマネジメントについては、学校の指導だけでは限界があることを示すものと考えられる。児童、保護者の評価数値に近いことは、自分の生活をある程度客観的にとらえることができていうことでもあり、今後の指導の手掛かりになるのではないかとと思われる。また、同様なことは、あいさつや返事の習慣化についてもいえることであり、わかっているけどできない、という児童の姿が垣間見える。
自らきたえる子	深い児童理解で【体力】やりきる力	児童理解	「心の安定」 ・背景、必然性、願い、当たり前のよさ の四つの視点をもって【深い児童理解】を進める。 毎日の健康観察を大切にす。変化に気づいたら、職員で共有し、対応する。 教育相談を学期ごとにおこなう。 定期的に情報交換会の時間を設ける。 SCの専門性を生かしてカウンセリングをすすめる。	・児童の心身の変化を見逃さず、早期に適切な対応をすることができた。	・先生は私のことをよくわかってくれている。	・お子さんは、家族や友達、先生などに、自分の気持ちや思いを話すことができていると思われますか。	100	90	78.4	・心の安定の面では、学校においてはある程度信頼関係が確立されているものと思われる。一方で、自分の思いを家族や友達、先生などに話すことができていないと思われる児童が一定数いることに配慮が必要である。 ・タイムマネジメントについては、学校の指導だけでは限界があることを示すものと考えられる。児童、保護者の評価数値に近いことは、自分の生活をある程度客観的にとらえることができていうことでもあり、今後の指導の手掛かりになるのではないかとと思われる。また、同様なことは、あいさつや返事の習慣化についてもいえることであり、わかっているけどできない、という児童の姿が垣間見える。	・自分の思いを教師や友達に話すことを苦手とするの児童には個別で話す時間や回数を増やす。 ・評価指標を子どもにとってもわかりやすいものにする。例えば「先生はわたしをはげましてくれる」のように具体的にすればどうだろうか。 ・タイムマネジメントはかなり簡素化している。今年度学校で取り組んでいることを来年度も継続して行う。 ・タイムマネジメントばかりではなく体力向上など別の視点も評価項目に入れることも必要。もちろん実践があつてこそその評価であるが。 ・礼儀やしつけは、学校が苦手とする部分で、そこは地域と役割の分担ができるのではないか。岡見小としての特色を打ち出すという面からも、学校運営協議会で話合いたい。
		生活習慣	「充実した心と体」 ・タイムマネジメントの意識を高める。 タイムマネジメント挑戦期間を学期に1～2回設ける。 タイムマネジメントに関連する教育活動に合わせて、事前の指導をする。 ・あいさつや返事の習慣化に取り組む。 児童の自発的な活動（委員会の取り組み）を工夫する。	・タイムマネジメントについての指導を行い、児童自らが発達段階に応じたタイムマネジメントができるよう働きかけた。 ・児童があいさつや返事を習慣化できるよう働きかけた。	・学習やメディアを使う時間は、自分で決めた時間を守ることができている。 ・あいさつや返事はよくしている。	・お子さんの毎日の生活リズムは整っていると思われますか。 ・お子さんは、家族の皆さんときちんと挨拶や返事をされますか。	100	70	73	・タイムマネジメントについては、学校の指導だけでは限界があることを示すものと考えられる。児童、保護者の評価数値に近いことは、自分の生活をある程度客観的にとらえることができていうことでもあり、今後の指導の手掛かりになるのではないかとと思われる。また、同様なことは、あいさつや返事の習慣化についてもいえることであり、わかっているけどできない、という児童の姿が垣間見える。	・タイムマネジメントばかりではなく体力向上など別の視点も評価項目に入れることも必要。もちろん実践があつてこそその評価であるが。 ・礼儀やしつけは、学校が苦手とする部分で、そこは地域と役割の分担ができるのではないか。岡見小としての特色を打ち出すという面からも、学校運営協議会で話合いたい。